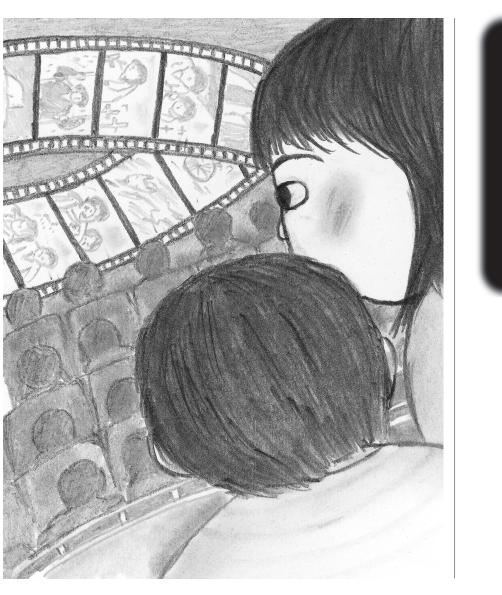
たしの原風景

9

石津ちひろいしづちひろ/絵本作家・詩人



イラスト/石川えりこ

それだけの理由で。もせずに、副業で映画館をやり始めたのだ。ただ映画が好きという、もせずに、副業で映画館をやり始めたのだ。ただ映画が好きという、父親がとつぜん、家の敷地内に映画館を建てた。家族にいっさい相談昭和三十年代の、愛媛での話である。わたしが小学一年生のとき、

扉を押していたときと同様の高揚感を、いつも覚えるのだ。いた。翻訳を依頼されて初めて絵本の原書を開くとき、映画館の重いこの感覚は何かと似ている……と思っていたのだが、はたと気がつ

といった洋画の名作とも巡り合ったのである。黒澤映画に出会い、『若草物語』『禁じられた遊び』『ローマの休日』わたしはそこで、『羅生門』『生きる』『天国と地獄』『赤ひげ』などのラインナップの豪華さに、思わず目が眩みそうになってくる。そう、それにしても、わが家の劇場で観た映画の数々を思い出すと、その

中だけで作れるという、あまり役に立たない特技がある。この特技が取った。そして、『禁じられた遊び』を繰り返し観るうちに、フラン取った。そして、『禁じられた遊び』を繰り返し観るうちに、フラン取った。そして、『禁じられた遊び』を繰り返し観るうちに、フラン

の世界の扉を開くよろこびを、知らないままでいたかもしれない。いずれにしても、父親の気まぐれがなければ、わたしはいまだに夢

培われたのは、小学生の頃に映画の字幕をたくさん見ていたからでは

ないか、と主張する人がいるのだが、はたしてどうなのだろう?